

第1回（仮称）ひたち若者かがやきプラン策定委員会 議事要旨

日 時 令和2年10月14日（水） 午前10時から正午まで

場 所 日立シビックセンター 502会議室

出席者 委員14名（欠席：湯浅委員）

<会議概要>

1 開会

2 委嘱状交付

委員を代表して、松村泰葉委員に、小川市長から委嘱状を交付した。

3 市長挨拶

- 若い方々に日立市を選んでいただき、定住をしていただきたいということが私の希望だ。改めて日立市が若い皆さんにとって育ちの場であってほしい。さらには学びの場、成長の場、そして何よりも安住、活躍の場として若い人たちに頑張ってもらいたい。
- そのためには、条件、環境の整備が必要で、本委員会では、若者がそういった形で育ち、学び、成長し、そして最終的に安住、活躍するための環境づくりにどういうものが必要なのかについてご意見・お知恵を拝借したい。
- 今回策定する若者対象のプランは、県内で初めての取り組みとなる。皆様方のご提言により打ち出されてきた政策を着実に、私どもとしては、速やかに実行していきたい。日立市のためにお時間をいただき、どうか活発なご審議をお願いしたい。

4 委員自己紹介

委員から自己紹介及び、事務局職員の紹介を行った。

5 委員長及び副委員長の選出

（仮称）ひたち若者かがやきプラン策定委員会設置要項第5条の規定に基づき、委員の互選により、委員長に中島美那子茨城キリスト教大学教授、副委員長に和田昂憲株式会社ただいま代表取締役が選任された。

○ 委員長挨拶

この会議は20代の方から、20代の方から見ると先輩となる年代の方までいるので、楽しく忌憚のない意見を発しながら、そして皆様が高め合えるような建設的な場になっていけばいいと思っている。自分が若い頃に、若いくせに、女のくせに生意気だと言われたことがあったことを思い出したが、ここではそんなことなく、活発なご意見をいただきたい。

○ 副委員長挨拶

垣根を超えて議論していきたいと思っている。また、どんな発言をしても許されるよ

うな環境づくりをしていくとともに、意見するだけでなく、行動に移していく会議にしたい。

6 議題

- (1) (仮称) ひたち若者かがやきプラン策定委員会の情報公開について
事務局から以下3点について説明し、了承された。

ア 委員会については原則公開、傍聴可能

イ 委員会の内容を要約版として作成し、ホームページで公開

ウ 委員会資料をホームページで公開

- (2) (仮称) ひたち若者かがやきプラン策定の進め方について
資料に基づき、事務局から説明した。

○ 委員長

- ・目指す姿のところにキーワードがたくさんちりばめられており、若者の自主自立な活動や交流の拡大、若い方達の居場所づくりなどもキーワードになると思う。
- ・若者かがやきプランについて、類似例を調べたところ、若者条例のようなものはあるが非常に少ない。前例が無いため思いを詰めることができると思う。

- (3) (仮称) ひたち若者かがやきプランスケジュール(案)について
資料に基づき、事務局から説明した。

- (4) 若者世代への意識調査内容について

○ 委員長

アンケート調査は、研究でよく使う手法なのだが、アンケートの中身が趣旨から外れると、一生懸命回答を集めても、結果としていいものではなくなってしまう。ぜひ、委員の皆様には内容を確認していただいて、意見を出してほしい。

○ 委員

意識調査の設問や回答の方法については、何を参考にしたのか。

○ 事務局

県外や他市町村で実施した、子育て及び若者に関する調査を参考にした。また、今回のプラン策定業務を支援するコンサルは、調査に精通していることから、相談しながら案として作り上げた。

○ 委員

首都圏への調査は、どのように配布するのか。

○ 事務局

首都圏への調査は、インターネットモニターとして、首都圏の東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県民が登録しており、その中から対象年齢を条件として無作為抽出を行う。

○ 委員

インターネットモニターだと、回答結果にバイアスがかかることはないのか。

- 事務局
抽出条件が年齢のみのため、現時点ではバイアスがかかるとは考えている。
抽出条件に入れたい内容があれば、意見をいただきたい。
- 委員
アンケートの方向性は、対象により回答の傾向が異なるか、ほとんど返ってこないか
だと思ふ。インターネットモニターが、どのように集められた人たちがわからないの
で、バイアスについては想像するしかない。とにかく、聞きたいことを聞くしかない
と思ふ。
- 委員長
結果を公にする場合、対象者や手法も明確にする必要があると思ふ。
- 委員
アンケートの回収率が低くても結果として使用するのか。また、全部の回答が出てく
るまで待ち続けるのか。方法はいくつかあると思ふ。結果がどのように変わってくるの
か予想がつかない。
- 事務局
首都圏への調査は、インターネットモニターから確実に回答が得られる調査である。
市内在住者については期限を設けるため、首都圏調査と比較すると回収率は低い可能
性がある。
- 委員
インターネットモニターになる人は、モニターになるという意識がある方が対象に
なるという認識で間違いないか。
- 事務局
間違いない。
- 委員
今回のアンケート結果も、ある程度若者に関する意識がある上位2から3割ぐら
いの方にかけたものにならないのか。
- 事務局
インターネットモニターは、調査会社に登録している方で、特に地方創生や移住に関
心がある層に限定されているわけではなく、一般の18歳から39歳の年齢層を条件と
し抽出する形になる。仮に、地方創生に興味がある層などを抽出することもできるが、
そうしてしまうとバイアスがかかってしまい、調査結果が変わってしまう。普通の若者
層を対象とするために、年齢層だけを条件に抽出する方がいいと考えている。
- 委員
納得した。
- 副委員長

- ・アンケートのように大多数の意見を吸い上げることも大事だが、一方で少数の方に深く聞いていくことも大事なのではないかと思う。プランを作るということは、お金の配分や時間をどこにどう使うかということだと思っており、その中には、在住者や移住希望者への深い洞察も大事になると思う。
- ・アンケートをやる一方で、各委員のコミュニティの中でも、対象になりそうな方にヒアリングし、考え方を吸い上げてほしい。回答数は多く取れないかもしれないが、深い部分を聞き取ることができ、大事なのではないかと思う。

○ 委員長

アンケートの限界というものも加味しながら実施していくことでいいかと思う。アンケートへの追加項目など、たくさんの意見をいただきたい。また、副委員長からもあったように、アンケートだけでなく、ヒアリングも大事にしていきたい。

○ 事務局

今後、市民から意見をいただく方法として、グループインタビューを実施したいと考えており、5団体程度を予定している。この団体の選定やインタビュー内容も、皆様に伺いながら進めていきたい。さらに、パブリックコメントの実施も予定しており、場所や、方法についても意見を伺いながら進めていきたい。アンケート以外にも広く意見を聴取しながら実施したい。

(5) 意見交換

○ 委員長

このプランをどういう方向に進めたいのか、日立市の課題や良いところをプランに入れておきたいなど、思っていることを自由にお話しいただきたい。また、ほかの委員に聞いてみたいことがあるればどのような質問でもいいので、積極的に発言していただきたい。

○ 委員

- ・周りのママ友は、日立に実家があるとか、職場があるという理由から日立にいる。一度、市外に出て、東京の大学に行き就職するが、結婚出産の年齢になった時に日立に帰ってきている人もいる。また、配偶者の仕事の関係で日立に来ている人もいるが、勤務任期が終われば日立から離れると言っている人もいる。そのような方の話をより深く聞くことも、今回の策定委員会の趣旨に沿った形になるのではないかと思う。
- ・若者の定住を目指すのか、若者が最終的に落ち着きたいときに帰ってくる場所を目指すのかによってプランの方向性が違ってくると思う。
- ・若者といっても、市長の挨拶にあったように、18歳から39歳までと幅が広いのでその中でも意識は変わってくると思う。そういった部分の調整が難しくなりそうだなと思った。
- ・家事の合間に市のSNSを見て、子どももいるし、そろそろ政治も考えなくてはいいけ

ないという思いから応募した。学生の頃から政治に参加し、それにより自分の暮らしがよくなるものだということを知りたかったという思いがあるため、小学生、中学生に向けた内容があってもいいのではないかと思う。

○ 委員長

- ・どこをターゲットにするのか、どういう年代の方をターゲットにするのかなど、正にそのとおりだ。今後の会議の中で絞り込んでいくところだと思う。
- ・ただ、事務局としては、プランには、20歳から39歳までの様々な生き方をされている方をターゲットに盛り込んでいきたいという思いがあるのだと思う。

○ 事務局

委員長のおっしゃるとおりである。日立市の若者の定義は、18歳から39歳までとしていることから、すべての年代をターゲットとして盛り込めればと思うが、18歳の方と39歳の方では考え方も求めているものも違うため、どのようにまとめるのかも委員会の中で協議しながら決めていきたい。

○ 委員

ターゲットに対する内容を1つずつ入れていくと、かなり細かい作業になると思う。実現できるかどうかは別としても、細かい内容を入れておく形にするのか。また、達成する目標の日付も入れるのか、イメージがわかっていないのだがどうなのか。

○ 事務局

- ・計画を作るからには、実現可能なものはまず実現するような仕組みを作り、それを行動に移せるような計画にしていきたい。
- ・ただし、計画の中には、社会情勢などから、長期的な視点で見なくてはならないこともあると思う。内容ごとに、短期、中期、長期という分類をしていかなくてはならないと考えている。
- ・できれば実践的なプランで考えているので、その視点でプラン策定をお願いしたい。

○ 委員

- ・4、5年前から毎年3月末に、学生50~60名を集めた就活フェス、いわゆる企業説明会を開催しているが、参加者を増やすためのアイデアを得るために、県内大学にアンケートを行った。
- ・アンケートの結果、日立市出身学生は、日立市内で就職したいが2割、市内にいたくないは8割だった。それ以外にも、子育て世代や、高卒の就職先、大学卒業後すぐ結婚など、対象とするジャンルがかなり細かくなった。
- ・プランをまとめる時にはジャンルを絞ると思うが、作業を進める上では一度、細かいジャンルをある程度広げ、カテゴライズするといいいのではないか。
- ・日立にある茨城大学は、女性が少ない工学部だけのため寂しいと思っている。女性がいない街というのは活気づかないし、男性も居つかないと思う。体感的なものだと思

うが、女性の多い茨城キリスト教大学の最寄り駅である大甕駅は活気があるような気がする。

- ・日立市内には駅が5つあり、駅ごとにそれぞれの文化があるが、数珠つなぎになっていると思う。自分は日立駅前イベントをすることが多いのだが、情報発信をしても、多賀や大みかの人たちはあまり遊びに来てくれない。私が感じたイメージなので、それにとられすぎると判断を間違えるかもしれないが、それを踏まえて仕事をすると自分は色々やりやすくなった。そのようなことがあることも踏まえてもらいたい。

○ 委員

- ・年代によって求めることは変わってくると思う。独身、就職、結婚、子育てといったタイミングが若者にはあるが、それぞれのタイミングで求めることが揃っていないと、住み続けるのは多分無理だと思う。就職するならこんな企業があったら、こんな情報があったらなど、それぞれのタイミングに合わせてまとめていけばいいものができるのではないか。
- ・カフェやおしゃれな店には県をまたいででも行く方がいることから、日立の山側にある団地の空き家を活用した素敵なカフェがたくさんあればいいのではないかと、とか、スケボーが流行っているので、スケボーができる公園を作ればみんな行くのではないかなどの意見を若者から聞いている。これは独身若者の話なので、その先の子育て世代などの意見も聞いていければいいと思う。

○ 委員

- ・東京から日立に戻って来た人間として思うことは、東京に人口が流入超過している状況はどこかで限りがあり、住む場所はどこでも良くなる時代が来ると思う。そういったタイミングで、このようなプランを作れることは有意義である。
- ・一方で、こういったことをやりたい自治体はたくさんあると思うが、パブリックなものを計画、実施しようとする、どうしても最大公約数を取りがちになる。そうすると、どنگりの背比べではないが、日立市が魅力的だねというプランにはならないのではないかと思う。
- ・ニーズがあるという前提で、ビーチフラッグではないが、これをやっている自治体は日本全国どこにもないというものを見つけることも考え方の一つではないか。ユニークであることが、このまちの魅力の一つを端的に見つけるきっかけになるかもしれない。
- ・全てを大切にすると、誰も魅力的に思わなくなってしまう、他の自治体と同じような感じになってしまうと、日立市の武器にはならないのではないか。

○ 委員

- ・日立市には桜など、色々な魅力があるものの、既存の施設のままでいいのかと思う。

例えば、かみね公園は非常にいい公園だがあまり人がいない。3つの遊具を1人の係員が運営できるぐらいのレベルの集客に見える。そういったことから、もう少し魅力的になれば、市外から人が来てくれて日立はいいところだと思ってもらい、こういうところに住みたいと思うきっかけとなるのではないか。

- ・例えば、かみね公園は傾斜があるので、そこにジップラインを設けて、上から桜を見るなどをすることで、アピールポイントになるのではないかと思う。
- ・学校の統廃合で小中学校が集約されるという話があるが、廃校などの跡地を上手く活用できるようにしていけばいいのではないか。
- ・山側にある空き家もうまく活用し、若者が集まるような賑やかな公園を作るなどすれば、人が住みたいと思うところにつながるのではないかと思う。

○ 委員

- ・大学の講義でまちづくり全般を学んでいるが、同学年で日立市のイメージを話し合うと、シャッター街というイメージが定着しており、賑わいやかがやきなどの言葉にそぐわないのではないかという話が出てくる。
- ・周囲の意見としては、そもそも賑わいとは、人間活動が見える、多種多様な目的を持った人たちが歩いている、空き店舗やシャッター街のイメージの定着がないものと考えている。
- ・大きいイベントを実施し一時的な賑わいを作ればいいのか、通勤する人が増えればいいのか、単に歩いている人を増やせばいいのか、そもそもの賑わいという方向性がどういうものなのかと思っている。
- ・18歳から39歳を対象にしているという意味では少し論点からずれるかもしれないが、つくば市に住んでいた時、つくばの小中学校では、つくばスタイル科という市について学ぶ授業があり、中学3年生の時には、特別授業で市の職員が来て、住んでいる地域の都市計画プランを考えてみようという授業があった。そういう授業があったからか、中学高校の同級生には都市関係、建築土木関係を志す人が多かったというイメージがある。
- ・18歳からというプランなので少し違うかもしれないが、幼い時からの教育が影響するので、子供から大人までつなぐような計画が必要だと思う。

○ 委員

- ・女性の活躍や社会進出と言われる中で、女性が社会に出ようとしたときに子どもを預ける場所が確保できないため、そこで女性の社会進出や活躍が止まってしまうことが問題だと思う。待機児童や希望の幼稚園、保育園に入れなかったことが解消されればいいと思う。
- ・産休、育休中の母親は限られたコミュニティの中にいることが多いと思うが、実体験として何が一番大切なのかを考えた時に、社会とのつながりを持つことがとても大

事だと思った。子育てに一生懸命な時は周りが見えない時期になってしまうが、そういう時期だからこそ、母親が社会とつながりを持つ事が子どもにとってとてもいいことだと思う。母親自身が普段あまり会わないような方たちの話を聞ける機会や、コミュニティがあるといいのではないかと思う。

○ 委員

- ・移住計画を立ち上げてから3年ほどたったが、茨城に色々な人と関わってもらって継続ポイントを作るために色々なことをやってきた。そのような中で、人それぞれには選択肢があり、とどまって不幸になる方もいれば、出て行って輝く方もいるので、そこは流動的でいいのではないかと思う。
- ・私自身、秋田から出る選択をして、居心地がいいから日立に住んでいる状態だが、残るにせよ出るにせよ、どちらにしても関わり続けるとか、どういう場所においても成長できる仕組みが大事だと思っており、日立に住みながら色々なチャレンジができていたため場所は関係ないと思う。
- ・日立から出ていった人にも、何かしらの関わりがあればと思う。つまり、出ていく人が多いということは、日立市を知っている人が色々な地域に散らばっている状態なので、出ていった人が何かできるような仕組みがあればいいのではないかと思う。私も秋田出身として、こちらで秋田の名産を紹介したり、秋田へのツアーを組み何十組も送り込んだりしているが、そういう役割の人たちが増えればいいと思う。
- ・ただ、移住関係のプロモーションを始めた中で、ネットで日立市を調べても全く出てこなかった。日立にはこんな人がいるなど、編集して渡すところまでやっているが、結果的に住んでいる人たちがちゃんと可視化できていないのと、整えられていないという課題がある。そのあたりが接続しやすいデザインが求められていると感じている。
- ・例えば、1つのインキュベーション施設やコワーキング施設を作ったとしても、そこは交差点みたいなもので、その先に例えばただいまコーヒーやGENKANの様な、ふらっと寄れる場所が増えれば増えるほど、その地域の波紋が広がっていくので、そういうデザインをしていきたい。

○ 委員

- ・若者が日立に住むとき、どうしてもシャッター街を見てしまうので、意識として住みたくないという気持ちが強く出てしまうのではないかと思う。
- ・商店街にサテライトオフィスなどを作り、居場所をある程度確保したとしても、生の企業活動を見ていない方が多い。若い時から企業の活動を直に見れる事が大事ではないかと思う。

- ・サークルでも、若者は日立市の商店街は利用せず、水戸の方に流れていってしまう。ヨーカドーにハレニコはできたが、若者が行くような店舗が少ないという意見がある。
- ・若者が集まる仕組みとしては、企業と一緒に若者が成長できる場所を作ればいいのではないかと思う。

○ 委員

- ・つくば市の地域を学ぶ授業だが、日立市もまったくないわけではないと思う。
- ・ある街の高い煙突という映画の実行委員を務めたのだが、日立駅周辺の方は知っているため見に行く人が多かったが、多賀以南になると、知らない方が多かったようだ。そこが根本に抱えていることで、私たちの街なんだという感覚が抜け落ちており、考え方も違うのではないかと思う。これは映画の話だけに限らず、色々なところでも同じことが言える状況だと思う。
- ・何か新しいことをやろうという話が出るが、成功する流れがないままに失敗を続けると、失敗するために何かをするという流れになってしまうので、プランを作っていくうえで、解決策がない中で作ってしまうと失敗してしまう出口に近づかないやり方になってしまう可能性があるのではないかと思う。
- ・ちなみにシャッター通りの話が出たので思い出したが、以前、他自治体の講演会でシャッター通りを立て直した話があった。空き店舗にしている理由として、商売が成り立たないから辞めたわけではなく、高齢で商売をしない人がそこに隠居して住んでいるからシャッター街になっているという根本的なことが原因であった。日立にも一部そういうところがあると聞いている。ちなみにその自治体では、行政が土地を買い上げ、住んでいた人には別のところに住んでもらい、別の人に貸すまでした。ある程度は納得してもらったものの、ある意味強行ではあったが、そこまでしないとシャッター街は解消しないのではないかと思った。

○ 委員長

- ・シャッター街は日立市だけの問題ではなく、全国各地で起こっている問題であり、表はシャッターが閉まっているが、裏には当時の店主たちが住み続けているというのは聞く話である。例えば、常陸太田の鯨岡商店街という趣のある通りがあるが、そこで若い人達がお店を探しても、裏に住んでいるから貸してもらえないという問題が起こっていると聞くので、そのあたりの抜本的な解決策、改革も必要になるのだと思う。
- ・賑わいとはどういうことなのか、若者が来て、若者で賑えばいい、本当にそうなのかということも考えていかなければならない。
- ・若者の生き方、18歳から39歳まで幅があり、ライフステージによってニーズが違うため、それぞれのニーズにより違う内容を入れなくてはいけないという意見があ

った。例えば、ママたちが自分達のママコミュニティはあるが、それ以外のコミュニティがないので、ステージの違う人たちがコミュニティで混ざってみたらどうかという意見と、そのコミュニティの中に中学生も入ってきたらどうだろうという意見があった。

- ・つくば市で、市に目を向ける機会が授業の中に組み込まれているという話があったが、日立市でも同様の取り組みはしているのだと思うが、多分組み込み方が、日立市の歴史から始まり、特産物など、子ども目線ではない市の取り上げ方をしている可能性があるのかもしれない。
- ・せっかく若い方々のロールモデルが揃っているので、そういう方が教育に入り込み、子どもたちに日立市で生きていくということについて教えることも、影響を及ぼせるのではないかと思う。
- ・どのように日立市に目を向けさせる機会を与えるかということも大事なのではないかと思う。

○ 副委員長

- ・委員の皆様には、それぞれの役割の中で活躍されており、知見もたくさんあるかと思うので、揉んでいってしっかりとプランを作りあげていきたい。
- ・提案としては、次の回まで1か月くらいあるので、会議で情報を共有することももちろん大事だが、例えばネット上で情報をやり取りできる場を作って、もう少し簡単にアイデアなどがあればそれを入れられるような仕組みを作ればと思う。

○ 委員長

今回の会議は、皆様がどのような活動、どのような事を考えているのかなど、意見を吸い上げることをメインにした場として設定されたものである。次回からは、もう少し絞った内容で意見交換を行えればと思っているので、次回もお付き合いいただきたい。

7 事務連絡

(1) 次回の日程等について

次回は11月18日(水)午前10時から日立シビックセンターで開催

(2) 若者への意識調査内容の確認について

調査内容を確認し意見を10月19日(月)までに事務局へ提出する。

(3) 第1回策定委員会アンケートについて

若者がかがやくために必要な支援や会議終了後の感想を10月23日(金)までに事務局へ提出する。

8 閉 会

以 上